



# 早稲田大学 立川稻門会会報

2019年12月20日  
第24号  
発行 立川稻門会  
編集者 小林和雄  
事務局 立川市富士見町  
2-36-43  
<http://tachikawatomon.com>

## 箱根路へ扉が開く！ 立川稻門会の応援も後押し

来春の箱根駅伝出場の切符をかけた予選会が昭和記念公園で開催され、早稲田は9位(10位以内が出場)で、出場権を獲得しました。



力走する早稲田のランナー【撮影：大倉健弘(S57 政経)】

今や立川市の秋の風物ともなった「箱根駅伝予選会」。新春の箱根駅伝出場をかけた予選会が、一〇月二六日に昭和記念公園で開催されました。

この予選会には、一月の箱根駅伝で惜しくもシード権を逃した早稲田も出場。箱根への出場権をかけて43校が参加。明大・中大・日体大など駅伝強豪校がひしめく中、熱い闘いが繰り広げられました。

に大きな声援を送ろうと、立川稻門会も他の稻門会に動員を呼び掛け、特注の幟旗を作り、応援団を結成しました。

競技は各校上位一〇名の選手の合計タイムで競い、早稲田は九位の成績で、見事に箱根路の切符を手にしました。

終了後は、会場を居酒屋『ちゃんこ花道』に移して祝勝会を行ないました。

“声援を力に変えよう！”

新春の箱根駅伝での早稲田の活躍を願って、稻門会の皆さんで力強い声援を送りましょう。

箱根をめざす選手たち



立川稻門会の幟旗のもと力一杯の応援！

早稲田 「箱根駅伝」 出場へ

# 特集

趣味を  
極める

“趣味を持って人生を楽しむ”人は、たくさんいますが、“趣味そのものが人生だ”と言い切れる人となると、少し限られてくるかも知れません。

そこで今回の特集では、「立川稲門会」の会員で、長年にわたって続けてきた趣味を通して人生を謳歌している三名の“極め人”に登場していただきました。

ソバ打ちを  
極める

田辺泰夫さん

(S31年 商)

四〇年前、当時“最も発展の遅れた国”と言われていたパプアニューギニアに駐在し、そこから私のソバ打ちが始まりました。

ここはマラリア・ Deng熱が蔓延し、前任者がラスカルという強盗集団に七回も襲われたという地域。日本の食材は殆どなく、毎日緊張と不便を強いられる連続でした

小麦粉や食塩があったのです。これを二対一で混ぜて練って板に乗せ、モップの棒を利用して平たく延ばして細く切ったら、ウドンができました。しかし、最初に出来上がったのはスイトンのようなウドン。四年間の駐在期間で使った小麦粉の量は、約七〇〇キロになりました。

一方、夜の外出はとても危険で、ウドンを打った晩は友人・知人が我が家に集まり、ウドンパーティーを開きました。お陰で、在任中はラスカルに一度も襲撃されませんでした。まさに、ウドンに助けられた人生でした。

集まった人の話し声がやみ、ソバをすする音だけが聞こえて来たら、美味しく食べてもらっていました。最初に出来たソバは短いものばかり吹っ飛びます。美味しい

です。これを二対一で混ぜて練って板に乗せ、モップの棒を利用して平たく延ばして細く切ったら、ウドンができました。しかし、最初に出来上がったのはスイトンのようなウドン。四年間の駐在期間で使った小麦粉の量は、約七〇〇キロになりました。



うどん作りにハマった田辺さん  
(1987年7月 パプアニューギニア)



ソバを腹一杯食べて貰う楽しみ、これが長生きの秘訣かも知れません。今はソバが、私を助けてくれている人生になっています。

ダイビングを  
極める

桑原一雅さん

(S53年 商)

あれは、五九歳になつた一月、家内と行ったタイ・ourkeットでの体験ダイビングが、初めての出会いでした。

帰国して「ソバ打ち同好会」に入り、念願だったソバの打ち方を教えてもらいました。最初に出



水中写真を撮り終えた桑原さん  
(2018年4月 沖縄慶良間諸島)

位潜っています。水中写真にもハマってしまい、海の中の世界を写真に収める楽しさにも目覚めました。

ダイビングの魅力は、

潜ることだけにとどまりません。旅先で出会うダ

イバー同士の交流が、そ

の楽しさを更に深めてくれます。一緒に潜つたらすぐに仲良しになれるダ

ビングで、海中に暮らす様々な生物たちの織り成す素晴らしい世界のとりこになってしまいました。

その後、初級の資格を取り、一年以内でMaster Scuba Diver<sup>ムード</sup>アマチュアの上級の資格まで取りました。最初の頃は、伊豆半島で潜っていましたが、徐々に沖縄・フィリピン・インドネシアなど多くのリゾート地まで出掛けて潜ることが多くなりました。

今までに、約四五〇回

若い人」と言っています。

ダイビングは、まさに

その条件にピッタリです。

これから未知の世界の

ダイビングスポットにも足を運び、七〇歳までに

一〇〇〇回を達成するこ

とが私の夢です。

皆さん、ダイビングお

薦めですよ！

## 日本舞踊を 極める

丸本和代さん

(S40年 文)

疎開で終戦後も立川におられた花柳流の師匠の稽古場が自宅近くにあり、母に背負われて見に行つたのが始まりです。

そこで初めての「おどり」に惹きつけられ、七〇年以上の舞踊人生を歩むことになったのです。

一七歳で師範名取となり、早稲田の演劇科に入學後は、歌舞伎・日本舞踊研究の郡司正勝教授、民族芸能研究の本田安次教授の熱い思いに溢れた

教えを受け、古典芸能のはかり知らない奥深さに魅入られました。

日本舞踊協会では、他流派の舞踊家達との交流を通じて多くの刺激を受け、現在は城西ブロック都下の委員をしていました。また、日本民族芸能協会の会員としても、文化庁の助成事業で全国の民族芸能の取材・映像化に数年間参加しました。中でも、秋田県羽後の西馬音内盆踊、岡山県笠岡の白石島盆踊、新潟県柏崎の綾子舞は、初期歌舞伎踊りの面影が見られ、大変感動しました。

一方、私の人生を振り返ってみると、二十代から三十代は人並みに結婚・出産・育児をしながら、自分の稽古と弟子の指導を続けていました。

医者の友人が  
「ボケない人の大半は、心から楽しめる趣味を持ち、仲間がいる気持の

イバーの仲間達は、仕事の世界ではお目にかかれな  
い様々なバックグラ  
ンドを持った人達。若い人から同  
年代の人まで様々で、女性も多くい  
ます。



アオウミガメを撮影 (2018年12月 フィリピン ボホール島)

四十代前半の大病を契機に、五十年代～六十年代になつてからは、日本舞踊家 花柳小春としての活動を少しづつ増やし、毎年、国立劇場の会（舞台）に出演し、主宰する小春会の公演を立川市民会館で開催するなど、頑張つてきました。



長唄 都風流を上演する丸本さん（平成29年 小春会）

つかなくなります。これから先は、演者の持つている精神性が求められるので、益々精進しなければなりません。

日本の歴史・四季折々の花鳥風月・心象風景など、美しい言葉と音に載せて表現する古典舞踊の素晴らしさを多くの人々に観ていただき、次の世代に芸を継承出来るよう、もう少し踊り続けたいと思っています。

大学を卒業してからも、多くの交流や親睦の場がある早稲田大学「稲門会」。

今年度も「立川稲門会」では、数々の会員同士の交流がありました。

## 平成30年度 事業活動

◆◆◆ この一年 ◆◆◆

# 新年会

平成最後の「新年会」に一月九日、四〇名の参加者が集い、レストラン『オアシス』で行われました。

箱根駅伝ではシード落ちと早稲田スポーツは寂しい幕開けとなりましたが、年男の原健一さんの発声による乾杯！で元気になりました。

ショータイムでは、立川市出身の稲門芸人「スイーツなかのさん」による軽妙なパフォーマンスや、一品持ち寄りの福引き大会、今年の運勢を占うクジなど、会場は大いに盛り上りました。

そして、小林章子副会長の歌、河津哲也さんに



新年会に勢ぞろいした稲門会員の面々

よる草笛演奏などが披露された後、会長（小林和雄）の音頭で校歌を斉唱。  
中締めは、小木曾夏樹さんのユーモアあふれる挨拶で、新年会は賑やかに幕を閉じました。  
(小林和雄 S47年 理工)





台風の中、「定期総会」に出席した10名

以上の議題について各担当役員から説明があり、議題は全て承認されました。

その後、佐竹茂市郎会計幹事による挨拶があり、最後は木村辰幸業務幹事の指揮で、校歌「都の西北」を斉唱し、閉会となりました。

なお、予定されていました、倉迫康史さん(H4年政経)による講演会並びに懇親会は中止となりました。

(相川雅信 H3年 政経)



入会金・年会費等はな  
く、早大ボランティア組織として良心的な運営をしています。

## 立川稻門かわら版

### 「いなほ会」

どんな会?



どんな活動を?



「稻門いなほ会」は、  
早稲田大学の出身者で  
運営される非営利団体

現在は、九つの稻門会  
【西東京・清瀬・小金  
井・国分寺・小平・立  
川・練馬・東久留米・東  
村山】で構成されてい  
て、首都圏を中心活動  
しています。入会者数

昭和六三年に西東京稻  
門会で創設され、平成  
二四年には近隣稻門会  
との連携が始まりまし  
た。

会員に出会いの場を提  
供するため、個別のご紹  
介のほか、毎年数回、婚  
活パーティーも開催して  
います。

詳しく述べて、平野までお  
問い合わせください。

じゃんけんゲームでナイスカップル誕生!  
(2019年7月 武藏野スイングホール)

く、早大ボランティア組織として良心的な運営をしています。

近年、「結婚しない、  
結婚できない男女」が若

者から中高年まで増えて  
いて、生涯未婚率や少子  
高齢化といったキーワードが社会問題化していま

す。

こうした男女に対し  
て、出会いの場を提供  
し、成婚につなげる役割  
を担いながら、社会に貢  
献することを目指してい  
ます。

【入会時に事務費千円  
の振込みと、成婚された  
場合は一組五万円の寄付  
をいただいている】

各稻門会の会員・会員  
の子女・会員のご友人や  
ご関係者など、会員から  
責任をもってご紹介され  
た方に限られます。ご本  
人の出身校・年齢・結婚  
歴などは問いません。

会員に出会いの場を提  
供するため、個別のご紹  
介のほか、毎年数回、婚  
活パーティーも開催して  
います。

詳しく述べて、平野までお  
問い合わせください。

代から四〇代です。

# 「立川早稲女会」

これまで『立川早稲女会』は、お茶会、ピアノ鑑賞、オペラ鑑賞、講話など様々な内容で開催してきましたが、今回は彫刻鑑賞です。

昭島フォレスト・イン昭和館の北側に隣接する樹林地に「昭和の森 武藤順九彫刻園」があります。武藤順九の作品は、バチカン市国ローマ法王公邸、インドのマハボディ大寺院、アメリカのデビルスター国定公園に永久設置されていて、これは世界芸術史上初めての偉業と言われているそうです。

「開園が六月九日なんだった。六月はJuneだから、名前が順九（じゅんきゅう）なのね！」「ちがう、ちがう、名前が順九だから六月九日にしたんでしょ。」

その後はホテルのレストランでのランチタイム。



九月三〇日、集まつた五人の早稲女が、緑の森の中に置かれている不思議な形の大理石の彫刻九点を見ながら散策しました。まだまだ残暑が厳しい夏の日差しがまぶしい日でしたが、この森の中は別世界。まるで高原の避暑地のようで、木漏れ日に溶け込むように浮かぶ作品を見ながら、楽しく感想を語り合いました。

昭島フォレスト・イン昭和館の北側に隣接する樹林地に「昭和の森 武藤順九彫刻園」があります。武藤順九の作品は、バチカン市国ローマ法王公邸、インドのマハボディ大寺院、アメリカのデビルスター国定公園に永久設置されていて、これは世界芸術史上初めての偉業と言われているそうです。



立川稻門会を支える早稲女  
(昭和の森 武藤順九彫刻園)

## 早稲田ラグビーを愛する会

### 早慶戦

◆H30年1月23日

◆秩父宮ラグビー場

創部百周年の早稲田。

相良監督の新体制となって、四年生がチームテ

マを『MOVING』と決めて臨んだ早慶戦でした。試合は、後半四〇分

が過ぎた終了間際のラストプレー。佐々木選手が右隅に値千金の逆転トライを決め、二一対一四で勝利しました。

(小林章子 S54年 法)



早明戦に勝ち、歓喜の早稲田スタンド席  
(2018年12月 秩父宮ラグビー場)

### 早明戦

◆H30年12月21日

◆秩父宮ラグビー場

定期戦九四度目の対戦となつた早明戦。中野選

と

勝利しました。

手の二トライなどで明治を

三一対二七で破り、帝京大

と六勝一敗で並んで同時

優勝を果たしました。

## 同好会だより

八年ぶり二三度目の対抗戦制覇です。試合終了後は、応援に駆けつけたメンバーでの懇親会は、祝勝会となりました。

(大上保 S38年 教育)

## 散策の会



(長谷川英夫 S 41年 法)

平成一六年に立川市内の名所・旧跡を訪ねることを目的にしてスタートした会ですが、早いもので一五年が過ぎました。七月と八月を除く毎月

第三水曜日に、のんびりと会話を楽しみながら歩きます。

会員への通知のほか、ホームページでも毎月の予定をお知らせしています。飛び入り参加も歓迎です。

(長谷川英夫 S 41年 法)



ます。

講師は主に会員が担当し、講演が終わると受講者同士が積極的に発言して、お互いの交流に努めています。終了後、講師を交えて会場近くのティールームでの語らいの場も好評です。

人との出会いを大切にして、感性を磨き、視野を広め、懇親を深めることをモットーに活動しています。

## 稻酔会

# 同好会だより

## 立川談話サロン

◆毎月第二火曜日

一四時～一六時

◆子ども未来センター

◆参加費 五〇〇円

(広瀬俊夫 S 39年 文)

忘れないことを念頭に、既に来年度の早慶レガッタ協賛広告費も集まっています。

来年の早慶レガッタ

も、「早稲田の勝利！」

を合言葉に、アサヒビール様のゲストルームを予約済みです。多くの校友のご参加をお待ちしています。



早慶レガッタで酔った？稻酔会の面々

加えて、母校の支援を

緒に『合同稻酔会』を年三回ほど開催しています。

(上野竜造 H 13年 政経)

## ゴルフ愛好会

また、他の稻酔会と一緒に『合同稻酔会』を年三回ほど開催しています。

九月・一二月・三月・六月の第二水曜日に開催していますので、参加のご連絡をお待ちしています。

(田村一葉 S 40年 文)

